



昭和の町

懐かしさと温かさが交差する、昭和の商人（あきんど）のいる場所

江戸時代から昭和30年にかけて、国東半島で一番栄えた町・豊後高田市。しかし、時代の波に取り残され、町は徐々に寂れていきました。そんな時、町の人々が考えたのは、今ではテレビや映画の中でしか見ることができなくなった、昭和30年代の懐かしい商店街の街並みを再現する取り組みでした。

豊後高田「昭和の町」は、商店街が全盛期だった昭和30年代の賑わいをもう一度よみがえらせようという願いを込めた場所。平成13年に商店、商工会議所、行政が一体となって取り組んだ“まちづくり”の集大成です。

現存する昭和の建物はそのままに、当時の様子をより忠実に再現。古き良き昭和の面影が残るこの町は、人々の記憶に眠る懐かしくて温かい心呼び起こしてくれます。人通りも少なかった総延長550mほどの商店街は、観光客が年々増え、今では年間約40万人が訪れる町へと生まれ変わりました。

各商品は、“一店一宝”として、その店の歴史を物語る昭和のお宝を展示し、また“一店一品”として、そのお店自慢の昭和の商品を販売しています。

至るところで昭和の香りがする「昭和の町」商店街。ぶらりと歩けば、どこか懐かしいあの時代に出逢えることでしょう。

*参考 2017年に「昭和の町」を舞台とした映画「ナヤミ雑貨店の奇蹟」が上映されました。主演は山田涼介、西田敏行さん等。加治屋は観賞しました。皆さんもビデオでご覧になってはいかがでしょうか。